

実体経済の動向

◇製品在庫は微増

(生産——3か月連続の増加)

5月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比、速報)は、+0.8%と3月以来3か月連続の増加となった(前年同月比-15.3%)。これは在庫調整の進捗を背景に、減産を緩和する動きがしだいに広がっているためである。

財別にみると、資本財輸送機械が、船舶、トラック等を中心にかなりの減少となったほか、非耐久消費財が連休を利用した洋紙類(新聞巻取紙、印刷筆記図画用紙)の減産強化などから小幅減少となったが、その他の財は総じて増加。とくに耐久消費財が、家電製品(カラーテレビ、ラジオ、洗たく機等)を中心に+4.5%と2か月連続して大幅増加となったのが目だったほか、建設資材(アルミサッシ、コンクリートパイル等)、生産財(汎用樹脂、繊維原料等)も前月に引き続き増加した。

なお、製造工業生産予測指数(季節調整済み、前月比)によれば、6月+0.7%、7月+2.2%と引

き続き増加が見込まれている。

(出荷——4か月ぶりに減少)

5月の鉱工業出荷(季節調整済み、前月比、速報)は、船舶の著減もあって-2.5%と、1月以来4か月ぶりに減少した(船舶を除くと-0.2%)。これは、輸出の減少に加え最終需要の回復力の鈍さをながめた仮需のはく落が主因であるが、5月の交通ストによる出荷停滞も多少響いたのではないかとみられる。

財別にみると、船舶、トラック等の資本財輸送機械が大幅減少となったほか、建設資材も条鋼類、セメント等を中心に減少し、非耐久消費財も、写真フィルム、服類の反動減が響いて12月以来5か月ぶりに減少となった。一方、耐久消費財は、乗用車、ピアノ等の減少にもかかわらず、家電製品(カラーテレビ、ラジオ、洗たく機等)の急増から大幅に増加し、また生産財も化学品(繊維原料、汎用樹脂等)、非鉄金属(アルミ、同圧延製品等)の増加から小幅ながら前月に引き続き増加となった。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	49年				50年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業	127.0	124.0	119.8	111.9	112.8	117.4	114.5
前期(月)比	-3.0	-2.4	-3.4	-6.6	1.1	4.1	-2.5
業 前年同期(月)比	-2.1	-6.2	-12.1	-14.2	-8.8	-7.3	-11.8
投資財	2.5	4.4	1.6	6.7	0.2	3.0	8.4
資本財	6.3	4.4	2.2	8.9	-0.1	3.1	-10.3
同(輸送機械を除く)	4.4	2.8	5.1	3.9	5.7	-10.0	-0.5
輸送機械	9.6	6.9	16.3	17.0	-11.0	31.2	-24.5
建設資材	4.6	3.3	10.0	4.1	-1.0	5.5	-2.4
消費財	5.7	2.1	1.3	2.8	1.1	6.8	5.2
耐久消費財	9.7	5.7	1.8	3.5	-0.9	1.2	8.9
非耐久消費財	2.9	0.5	1.0	2.0	1.3	13.1	-1.9
生産財	5.2	3.3	5.9	9.2	-0.2	4.4	0.5

(注) 1. 通産省調べ、50年5月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

(製品在庫——5か月ぶりに微増)

5月の生産者製品在庫(季節調整済み、前月比、

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	49年				50年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業	129.5	124.9	118.4	108.9	109.7	110.8	111.7
前期(月)比	-2.1	-3.6	-5.2	-8.0	1.4	1.0	0.8
業 前年同期(月)比	1.3	-4.7	-12.4	-17.7	-16.1	-14.3	-15.3
投資財	-0.6	-2.6	-5.6	-6.3	4.2	-3.9	0.2
資本財	1.7	-1.2	-3.8	-6.1	5.0	-5.7	-0.4
同(輸送機械を除く)	5.9	-3.7	-6.0	-8.1	8.0	-8.2	1.0
輸送機械	-5.7	3.1	2.8	-3.0	0.2	2.0	-4.5
建設資材	-6.0	-5.7	-10.7	-8.2	0.2	3.7	2.7
消費財	-1.4	-1.6	-1.6	-8.0	0	6.3	2.8
耐久消費財	-5.1	-0.8	-1.7	-12.2	-2.2	6.9	4.5
非耐久消費財	1.6	-2.6	-1.1	-4.6	1.2	5.4	-0.7
生産財	-4.0	-5.5	-7.2	-9.3	-1.5	3.9	1.1

(注) 1. 通産省調べ、50年5月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	49年 (期末)			50年 (期末)	50年		
	6月	9月	12月	3月	3月	4月	5月
鉱工業	148.2	159.7	169.7	161.1	161.1	158.0	158.5
指 数							
前期(月)末比	16.0	7.8	6.3	-5.1	-1.7	-1.9	0.3
前年同期(月)末比	29.4	36.0	45.1	26.1	26.1	15.4	11.0
製品在庫率	118.8	130.3	148.3	142.8	142.8	134.6	138.4
指 数							
投資財	19.4	12.1	2.4	-10.4	-2.3	-0.9	2.8
資本財	23.3	13.8	1.3	-10.8	-2.6	0.1	2.7
同(輸送機械を除く)	19.8	15.7	1.0	-9.4	-2.3	2.2	2.7
輸送機械	37.2	6.7	0.2	-14.2	-1.2	-7.8	-0.7
建設資材	14.6	9.0	3.6	-8.8	-1.1	-2.2	4.0
消費財	14.7	5.8	6.3	-11.2	-4.4	-4.3	-1.8
耐久消費財	21.5	7.5	6.2	-15.6	-6.7	-2.3	-1.7
非耐久消費財	9.7	4.2	5.5	-6.5	-1.9	-6.4	-1.5
生産財	15.5	7.1	7.0	4.3	1.8	-0.8	0.1

(注) 1. 通産省調べ、50年5月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

速報)は+0.3%と、年初来4か月連続減少のあと5か月ぶりに微増となった。この結果、生産者製品在庫率も138.4(前月134.6)と4か月ぶりに上昇し、製品在庫調整がやや足踏みしたかたちとなった。

財別にみると、耐久消費財は、家電製品の減少を主因に5か月連続して減少し、また非耐久消費財も、合成洗剤、洋紙類、メリヤス下着等の減少から4か月連続の減少となったが、建設資材が減産体制の足並みがそろわない平電炉製品を中心にかなりの増加となったほか、一般資本財も農機、トラクター等を中心に増勢を続け、生産財も、鉄鋼、非鉄金属の増加からわずかながら増加となった。なお、財別に在庫率の動きをみると、投資財が上昇したものの、消費財が大幅に低下し、その水準も前回不況期のピークをかなり下回る低水準となったほか、生産財もわずかながら前月に引き続き低下した。

(設備投資——一般資本財出荷は微減)

5月の一般資本財出荷(季節調整済み、前月比、速報)は、前月大幅減少(-10.0)のあと-0.5%と引き続き減少した。これは、ビル用機械(エレベ

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	49年		50年	50年		
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
民 需	3,585	2,559	3,105	3,319	2,324	2,608
	(3.0)	(-28.6)	(21.3)	(- 0.8)	(-30.0)	(12.2)
同(船舶を除く)	3,453	2,488	2,839	2,984	2,138	2,417
	(10.0)	(-27.9)	(14.1)	(- 1.8)	(-28.3)	(13.0)
製造業	2,000	1,362	1,574	1,579	923	1,482
	(9.7)	(-31.9)	(15.5)	(0.7)	(-41.5)	(60.6)
非製造業	1,614	1,200	1,502	1,648	1,427	1,157
	(- 0.5)	(-25.6)	(25.2)	(- 7.3)	(-13.4)	(-18.9)
同(船舶を除く)	1,486	1,118	1,265	1,357	1,245	964
	(14.1)	(-24.8)	(13.1)	(- 8.9)	(- 8.3)	(-22.5)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

ーター)、汎用機械(標準変圧機、射出成型機)等は増加したものの、大型機械(圧延機械、非標準電動機等)や建設機械の減少が響いたためである。

5月の機械受注額(船舶を除く)民需、季節調整済み、前月比)は、前月大幅減少の反動増のほか鉄鋼向けの著増もあって+13.0%と増加したが、水準は依然低い(前年同月比-23.7%)。

業種別にみると、製造業向けは、鉄鋼が設備更新、公害防止関連を中心に急増したほか、化学、石油向けも前月大幅減の反動増に加え、大型脱硝装置等の大口注文が重なったこともあって+60.6%(前月-41.5%)と急増。一方非製造業向けは、電力向けの不振から-22.5%と減勢を強めたかたちとなった(前月-8.3%)。この間官公庁向けは、防衛庁向けの大口受注を主因に+59.9%と急増した。

5月の建設工事受注額(季節調整済み、前月比、速報)は、+2.1%と小幅ながら増加に転じたが、前2か月減少のあとだけに水準は低く、盛り上がりには乏しい状況とみられる(前年同月比-16.5%)。このうち民間分は-2.4%と3か月連続の減少となったが、官公庁分は、+3.3%と小幅ながら増加に転じた。

◇5月の小売商況はやや持直し

全国百貨店売上高(季節調整済み、前月比)は、4月に-2.9%と減少したあと、5月は+4.0%と

増加した(前年同月比 +12.1%)。法人需要は不振を続けているものの、先月天候不順などから出遅れていた夏物季節商品がやや持ち直している。

品目別には、夏物婦人服、身のまわり品(ハンドバッグ等)が好調、食料品も堅調なほか、小型カラーテレビも回復傾向にあるが、家具、貴金属・宝石等高額商品は不振を続けている。

なお、6月の乗用車新車登録台数(速報、軽自動車を除く、自販連調べ、季節調整済み、前月比)は前月 -17.7%と減少したあと、+16.9%とかなり持ち直したが、4~6月通計では、前期比-6.1%となった(1~3月期同 +9.6%)。

◇商品市況は軟調

6月の商品市況は、繊維、板紙、灯油等一部商品が上伸ないし強含みとなったものの、条鋼類が前月に引き続きかなりの下落、鋼板類も小幅安と

鉄鋼全般に地合いが緩んだほか、非鉄(アルミを除く)が統落、また化学品、木材、砂糖等も弱地合いとなるなど総じてみれば前月に引き続き軟調に推移した。

こうした市況の軟化には、①梅雨入りに伴う荷動き停滞、②海外相場の統落(銅、鉛、砂糖)、などもかなり響いているが、主因は実需の回復テンポの鈍さをながめ全般に市況見直し気運が広がったうえ減産緩和の行き過ぎ(棒鋼、化学)などもあって、ユーザー、流通筋の在庫投資態度が慎重化したためである。

(卸売物価——落着き傾向持続)

卸売物価は、5月に前月比保合いとなったあと、6月に入ってから上旬 -0.1%(前旬比)、中旬 +0.1%(同)と、引き続き落ち着いた動きを示した。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ ェ イ ト	49年		50年			50年5月			6月	
		10~12 月平均	1~3 月平均	3月	4月	5月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
総 平 均	100.0	1.2	- 0.6	- 0.2	0.2	0	- 0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	0.1
食 料 品	13.4	7.7	2.4	0.4	0.4	- 0.1	- 0.1	- 0.1	0.2	- 0.1	- 0.1
非食料農林産物	2.4	- 4.1	- 2.7	- 2.2	0.2	- 0.6	- 0.3	0.1	- 0.6	0.1	0.5
織 維 製 品	7.8	- 3.1	0.1	0.7	1.0	1.5	0.5	- 0.1	0.5	0.2	0.7
製 材・木 製 品	3.8	- 4.4	0.9	- 2.0	0.1	0.5	0.2	0.3	- 0.2	- 0.8	- 0.1
パ ル プ・紙・同 製 品	2.8	- 1.9	- 4.4	- 1.6	- 1.1	- 0.2	0	0.2	0.1	0	0
金 属 素 材	1.9	- 10.4	- 8.5	3.6	2.3	- 2.8	- 0.4	- 0.6	- 4.2	- 0.2	0.2
鉄 鋼	9.4	- 3.5	- 6.9	- 0.5	- 0.4	- 0.5	- 0.2	- 0.3	- 0.6	- 0.4	- 0.3
非 鉄 金 属	4.2	- 9.5	- 4.6	0	2.3	- 1.9	- 1.1	- 0.7	0	- 0.8	- 1.1
金 属 製 品	3.8	1.2	- 2.3	- 0.7	- 0.3	- 0.3	- 0.1	0.1	- 0.1	- 0.2	- 0.1
電 気 機 器	9.0	1.9	0.5	- 0.4	- 0.1	- 0.1	0.2	0	- 0.3	- 0.3	0
輸 送 用 機 器	6.8	0.8	1.3	- 0.5	1.6	0.5	- 0.1	- 0.1	0.1	0.1	0.1
一 般・精 密 機 器	10.8	1.2	0.3	- 0.4	- 0.1	- 0.1	0.1	0	- 0.1	- 0.1	0.1
化 学 製 品	8.8	3.7	- 0.1	0.4	0	0.1	0.1	0.1	0.1	- 0.1	0
石 油・石 炭・同 製 品	4.6	6.8	1.4	0.2	0.8	0.2	- 0.1	- 0.1	0.2	0.1	0.4
窯 業 製 品	3.1	2.6	- 0.9	- 0.5	- 0.1	- 0.1	- 0.1	0	- 0.2	0	0
雑 品 目	7.6	3.0	0.3	- 0.4	- 1.1	0.1	0	0	- 0.1	0	0.1
工 業 製 品	85.5	0.7	- 0.6	- 0.3	0.2	0.1	0	0	0	- 0.2	0
大 企 業 性 製 品	63.3	1.4	- 0.8	- 0.1	0.3	0.1	0	- 0.1	- 0.1	- 0.1	0
中 小 企 業 性 製 品	20.1	- 0.8	- 0.8	- 0.4	- 0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	- 0.1	0.1
非 工 業 製 品	14.5	2.9	- 0.5	0.1	0.5	- 0.4	- 0.2	- 0.3	- 0.3	- 0.1	0.2

(注) 日本銀行調べ。

品目別にみると、上旬には繊維製品、輸送用機器が上昇したものの、鉄鋼、製材・木製品、非鉄金属等が下落した。また中旬には、非鉄金属、鉄鋼が続落した反面、繊維製品が続騰したほか、円安などによる輸出入品の上昇を主因に、輸送用機器、石油・石炭・同製品が上昇した。

(消費者物価——6月<東京都区部、速報>は微落)

6月の消費者物価(東京都区部、速報)は、被服が続騰したほか、住居、雑費も小幅ながら続伸したものの、野菜の急落を主因に季節商品が大幅下落、またガス税率引下げから光熱費も下落したため、前月比-0.1%と48年10月以来20ヵ月ぶりに前月比マイナスを記録した(前年同月比+13.7%)。

しかし、季節商品を除く総合では、前月比+0.6%(前年同月比+13.6%)と引き続き上昇。

消費者物価指数の推移

		ウエ イト	49年		50年			最近月 の前年 同月比	
			10~12 月平均	1~3 月平均	50年				
					4月	5月	6月		
東 京	総合 (季節商品を除く)	100.0 (91.3)	4.2 (5.6)	1.5 (1.1)	2.5 (2.4)	1.1 (0.8)	*-0.1 (0.6)	*13.7 (13.6)	
	食料	40.3	4.2	2.9	0.7	0.9	*-1.0	*14.8	
	住居	11.8	2.3	0.6	0.8	0.7	0.6	6.8	
	光熱	3.7	10.9	2.2	0	0	-0.4	15.6	
	被服	12.4	1.0	0.8	0.9	3.3	1.9	3.6	
	雑費	31.8	5.8	1.2	6.7	0.7	0.2	19.4	
	特殊 分類	農水畜産物	16.6	2.7	3.0	1.5	4.0	...	20.1
	工業製品	43.6	2.3	0.8	0.2	1.5	...	6.7	
	うち大企業製品	19.8	3.7	1.4	0.1	0.7	...	10.3	
	中小企業製品	23.8	1.3	0.4	0.3	2.2	...	4.6	
サービス	37.0	7.3	1.7	5.8	0.9	...	20.5		
全 国	総合 (季節商品を除く)	100.0 (91.0)	4.4 (5.6)	1.5 (1.3)	2.2 (1.8)	0.7 (0.5)	...	14.1 (13.6)	

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. *印は速報。

◇総合収支は前月に引き続き赤字

5月の国際収支は、総合収支でほぼ前月(赤字412百万ドル)並みの391百万ドルの赤字となった。

経常収支は、貿易収支が小幅の赤字(赤字19百万ドル、前月黒字645百万ドル)に転じたほか、貿易外・移転収支の赤字幅も国際機関分担金支払の集中などから拡大をみたため、前月(黒字193百万ドル)とは様変わりになり552百万ドルの赤字となった。

一方、長期資本収支は、対外直接投資および借款供与の減少、対日証券投資の高水準持続から150百万ドルの流入超(前月83百万ドルの流出超)に転じたうえ、短期資本収支も船舶輸出前受金の引落とし減少から37百万ドルの流出超と前月(流出超323百万ドル)に比し、赤字幅を大きく縮小した。

なお、5月の貿易収支(国際収支ベース)を季節調整後で見ると、輸出が大幅に減少した反面、輸入は小幅減にとどまったため、収支じりでは前月(黒字821百万ドル)をかなり下回る487百万ドルの黒字となった。

この間、外貨準備高は月中222百万ドル増加し、月末残高は14,557百万ドルとなった。

(輸出——減勢続く)

5月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整後前月比で-7.7%と、前月増加(同+5.4%)のあと、再びかなりの減少を示し、また原計数の前年同月比では-4.8%(前月同+13.1%)と、42年11月以来7年半ぶりに前年実績を下回った。なお、通関輸出の季節調整後前月比は-8.4%の減少となったが、これを数量と

価格に分けてみると、数量が-7.5%とかなり落ち込んだうえ、価格も-1.8%と小幅ながら低下した。

品目別(通関ベース)にみると、鉄鋼(季節調整

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	49 年		50 年	50 年			49年5月
	7~9月	10~12月	1~3月	3 月	4 月	5 月	
経 常 収 支	△ 134	1,133	△ 799	237	193	△ 552	△ 1,040
貿易収支	1,517	2,616	812	789	645	△ 19	△ 529
輸 出	14,683	16,231	12,961	4,987	4,739	4,304	4,522
輸 入	13,166	13,615	12,149	4,198	4,094	4,323	5,051
貿易外収支	△ 1,595	△ 1,435	△ 1,552	△ 538	△ 434	△ 483	△ 485
移 転 収 支	△ 56	△ 48	△ 59	△ 14	△ 18	△ 50	△ 26
長期資本収支	△ 551	△ 723	133	89	△ 83	150	△ 209
本邦資本	△ 750	△ 1,214	△ 702	△ 311	△ 412	△ 200	△ 149
外国資本	199	491	835	400	329	350	△ 60
基礎的収支	△ 685 (△ 1,467)	410 (△ 755)	△ 666 (△ 512)	326 (△ 38)	110 (△ 286)	△ 402 (△ 104)	△ 1,249 (△ 582)
短期資本収支	467	302	65	△ 27	△ 323	△ 37	241
誤差脱漏	△ 383	252	△ 89	△ 1	△ 199	48	△ 6
総 合 収 支	△ 601	964	△ 690	298	△ 412	△ 391	△ 1,014
金 融 勘 定	△ 601	964	△ 690	298	△ 412	△ 391	△ 1,014
外貨準備増減	△ 260	349	634	184	183	222	454
その他	△ 341	615	△ 1,324	114	△ 595	△ 613	△ 1,468
外 貨 準 備 高	13,169	13,518	14,152	14,152	14,335	14,557	13,167
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 12,262	△ 11,591	△ 12,888	△ 12,888	△ 13,427	△ 13,530	△ 10,309

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
49年7~9月	(+ 4,746 4.1)	(- 4,501 0.5)	245	(+ 4,873 6.1)	(+ 5,321 0.5)	(+ 3,596 6.2)	(+ 5,244 4.8)	(- 5,665 5.2)
10~12 "	(+ 5,009 5.6)	(+ 4,525 0.6)	484	(+ 5,133 5.3)	(+ 5,358 0.7)	(+ 3,712 3.2)	(+ 5,437 3.7)	(- 5,488 3.1)
50年1~3月	(- 4,891 2.4)	(- 4,227 6.6)	663	(- 4,925 4.1)	(- 4,925 8.1)	(- 3,232 12.9)	(- 5,122 5.8)	(- 4,683 14.7)
50年 2月	(- 4,869 7.5)	(- 4,047 11.9)	822	(- 4,792 9.3)	(- 4,606 16.4)	(+ 3,272 3.2)	(- 5,009 9.7)	(- 4,565 5.6)
3 "	(- 4,541 6.6)	(- 4,040 0.2)	501	(- 4,697 2.0)	(+ 4,658 1.1)	(- 3,251 0.7)	(- 4,806 4.0)	(+ 4,647 1.8)
4 "	(+ 4,786 5.4)	(- 3,965 1.9)	821	(+ 4,859 3.4)	(- 4,545 2.4)	(+ 3,478 7.0)	(+ 5,151 7.2)	(+ 4,727 1.7)
5 "	(- 4,416 7.7)	(- 3,929 0.9)	487	(- 4,449 8.4)	(+ 4,559 0.3)	(- 3,315 4.7)	(- 4,673 9.3)	(- 4,498 4.8)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

後、前月比 -17.9%)が中国向け船積みの6月以降へのずれ込みもあって数量面で大幅に落ち込み、船舶(同 -1.4%)は単価の上昇にもかかわらず前月引渡し集中の反動から小幅の減少。また自動車(同 -1.6%)も当月は伸び悩んだほか、化学製品(同 -6.2%)も価格低落が響き引き続き減少するなど、主要品目は軒並み減少した。

地域別には、共産圏向け(季節調整後、前月比 +3.6%)が繊維製品、機械機器を中心とした中国向けの持ち直しを主因に小幅増加となったものの、米国向け(同 -7.2%)、西欧向け(同 -12.5%)等先進国向け(同 -8.3%)が依然不振を続け、また東南アジア向け(同 -6.2%)も2か月連続増加のあと再び減少した。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整後、前月比)は、5月 -4.7%と減少したあと、6月は +4.6%とやや増加した。

(輸入—引き続き停滞)

5月の輸入(国際収支ベース)は、季節調整後で前月比 -0.9%と引き続き停滞(前月同 -1.9%)、

原計数の前年同月比でも -14.4%(前月同 -9.7%)と落ち込み幅を拡大した。通関輸入の季節調整後前月比は +0.3%となったが、これを数量と価格に分けてみると、数量が同 -0.8%の微減、価格が同 +1.5%と小幅の上昇。

品目別(通関ベース)にみると、原油(季節調整後、前月比 +20.5%)が前月からのずれ込みもあって輸入量が急増、砂糖(同 +42.7%)も輸入関税復活を見越した駆け込み輸入や単価の上昇から大幅に増加したほか、羊毛(同 +16.7%)、鉄鉱石(同 +3.2%)も数量増を主体に増勢を示したが、非鉄金属(同 -24.1%)、機械機器(同 -14.7%)は相変わらず不振で、このところやや持ち直していた木材(同 -13.7%)も、当月は数量、価格両面からかなり落ち込み、石炭(同 -4.7%)も引き続き低迷。

6月の輸入承認・届出額(季節調整後、前月比)は、5月 -4.8%と減少したあと、6月は +14.1%の大幅増加となった。